

平成 25 年度（第 81 回）  
関西アマチュアゴルフ選手権決勝競技

期 日 平成 25 年 5 月 28 日～31 日  
場 所 田辺カントリー倶楽部

一般社団法人 関西ゴルフ連盟

競 技 の 条 件

1. ゴルフ規則  
日本ゴルフ協会ゴルフ規則とこの競技のローカルルールを適用する。
2. 競技委員会の裁定  
競技委員会は競技の条件を修正する権限を有し、すべての事柄について、この委員会の裁定は最終である。
3. 使用球の規格  
『公認球リストの条件・ゴルフ規則付 I (c)1b』を適用する。(ゴルフ規則 175 頁参照)
4. 使用クラブの規格  
『適合ドライバーヘッドリストの条件・ゴルフ規則付 I (c)1a』を適用する。(ゴルフ規則 174 頁参照)
5. ゴルフシューズ  
正規のラウンド中、競技者が金属製・セラミック製、または委員会がそれと同等と認めた鋳を有するゴルフシューズを使用することを禁止する。この条件の違反の罰は競技失格。
6. 競技終了時点  
本選手権競技は、競技委員長の成績発表がなされた時点をもって終了したものとみなす。
7. ホールとホールの間での練習禁止  
『ゴルフ規則付 I (c)5b』を適用する。(ゴルフ規則 179 頁参照)
8. プレーのペースについて (ゴルフ規則 6-7 注 2)  
各ホールのプレーに許される時間の限度を記載した「タイムパー」をスタート時に配布するので、これに遅れないこと。特別な事情もないのにこの時間より遅れた場合 (アウトオブポジション)、ストロークに要する許容時間を個別に計測する。  
※アウトオブポジションに該当しなくとも遅れが生じていると委員会が判断した組に対してはペースの回復を求めることがある。  
※特定の選手のペースが著しく遅い場合はその組がアウトオブポジションに該当しなくとも、その選手に通知した上でショットに要する時間を計測し、罰則を適用することがある。
  - (1) アウトオブポジションの定義  
次の両方に当てはまったとき、その組はアウトオブポジションとなる。
    - (a) あるホールのプレーを終えた時点で、スタートからそこまでの実際の所要時間の合計が、「タイムパー」に記載された時間をオーバーした場合。
    - (b) 第 2 組以降の組では、前の組との間隔が 1 ホール以上 (パー 4 のホールを基準) 空いた場合。
  - (2) アウトオブポジションとなった場合の措置  
あるホールを終えてある組が特別な事情がないのにアウトオブポジションとなった場合、競技委員はホールとホールの間でその組全員に、アウトオブポジションとなったこと及び次のホールから各プレーヤーのすべてのストロークに要する時間を計測することを通知する。委員会がその組の各競技者のストロークに要する時間を計測し(3)の許容時間を超えた場合、プレーヤーに(4)の罰則が適用される。  
例外：特別な事情(ルーリングや紛失球等)があったと委員会が判断した場合、委員会はその組に対して前の組との間隔を縮めるように求める。その結果、合理的時間内に遅れを取り戻すことができれば、各競技者のストロークに要する時間は計測しない。
  - (3) ストロークに要する許容時間  
原則：40 秒。  
例外：パー 3 ホールにおいて最初にプレーする者、パー 4 とパー 5 のホールにおいて第 2 打地点から最初にプレーする者、パッティンググリーン周辺やパッティンググリーンの上で最初にプレーする者のショットの許容時間は 50 秒とする。  
注：ストロークに要する許容時間の計測はその競技者のプレーの順番が回ってきた時に開始する。

#### (4) 罰 則

タイムオーバー 1 回目－警告、タイムオーバー 2 回目－1 打の罰、タイムオーバー 3 回目－更に 2 打の罰、タイムオーバー 4 回目－競技失格

注：アウトオブポジションとなった組は、その後で遅れを取り戻しても、そのラウンド中のタイムオーバーの回数は持ち越す。

#### 9. プレーの中断と再開

(ア) プレーの中断（落雷などの危険を伴わない気象状況）については、ゴルフ規則 6-8b、c、d に従って処置すること。

(イ) 険悪な気象状況にあるため、委員会の決定によりプレーが中断となった場合、同じ組の競技者全員がホールとホールの間をいたときは、各競技者は委員会よりプレー再開の指示が出るまでプレーを再開してはならない。1 ホールのプレーの途中であった時は、各競技者はすぐにプレーを中断しなければならず、そのあと、委員会よりプレー再開の指示が出るまでプレーを再開してはならない。競技者がすぐにプレーを中断しなかったときは、ゴルフ規則 33-7 に決められているような、罰を免除する正当な事情がなければ、その競技者は競技失格とする。

この条件の違反の罰は競技失格（ゴルフ規則 6-8 b 注）

(ウ) プレーの中断と再開の合図について

通常のプレー中断：カートに付設の無線を通じて通報する。

険悪な気象状況による即時中断：カートに付設の無線を通じて通報する。

プレーの再開：カートに付設の無線を通じて通報する。

#### 10. 移 動

委員会が別途認めた場合を除き、競技者は正規のラウンド中、いかなる移動用の機器にも乗ってはならない。ただし、キャディーが乗用カートに乗ることは認められる。この条件の違反の罰は『ゴルフ規則付 I (c)8 移動』を適用する。（ゴルフ規則 181 頁参照）

#### 11. キャディー

正規のラウンド中、競技者が委員会によって指定された者以外をキャディーとして使用することを禁止する。この条件の違反の罰は『ゴルフ規則付 I (c)2』を適用する。（ゴルフ規則 177 頁参照）

#### 12. 競技の短縮

委員会は、コースの状況が適正なるプレー不可能と判断したときは、競技の条件に定めてあるホール数を短縮することができる。

#### ローカルルール

1. アウトオブバウンズの境界は白杭をもって標示する。
2. 修理地は青杭を立て、白線をもってその限界を標示する。
3. ウォーターハザードは黄杭、ラテラル・ウォーターハザードは赤杭をもってその限界を標示する。
4. 第 4 番、13 番ホールで球がウォーターハザード内にあるか、あることがほぼ確実な場合、プレーヤーは次のいずれかの処置をとることができる。
  - i) 規則 26-1 に基づく処置
  - ii) 1 打の罰のもとに球を指定ドロップ区域にドロップ
5. 排水溝は動かさない障害物とする。
6. 電磁誘導カートの 2 本の人工の表面を持つ軌道は、全幅をもってカート道路とみなす。
7. 人工の表面を持つ道路に接した排水溝は、その道路の一部とみなす。
8. スルーザグリーン芝草を短く刈ってある区域（規則 25-2 参照）にある距離測定のための黄色いペイントは修理地とみなす。しかしながら、そのペイントが競技者のスタンスの障害となっても、それ自体は規則 25-1 に基づく障害とはみなされない。球がそのペイント上にあるか、触れている場合、またはそのペイントが意図するスイング区域の障害となる場合、規則 25-1 に基づいて救済を受けることができる。このローカルルールの違反の罰は 2 打。
9. 第 11 番、13 番、17 番ホールにおいて、球が高圧送電線に当たった場合は、そのストロークを取り消し、罰なしに再プレーしなければならない（ゴルフ規則 20-5）。その球をすぐには取り戻せない場合は、別の球に取り替えることができる。このローカルルールの違反の罰は 2 打。

10. 防球ネットからの救済を受ける場合は、その障害物の上を越えたり、中や下を通すことなく、ニヤレストポイントを決定しなければならない。このローカルルールの違反の罰は2打。
11. 規則 25-3 の適用に関しては、その周辺のカラー部分を含むものとする。

#### 注 意 事 項

1. 競技の条件やローカルルールに追加、変更のある時は、スターティングホールティーインググラウンド付近に掲示して告示する。
2. 競技の条件 5 項で規制されるシューズ以外でもグリーンに著しく損傷を与えるシューズは使用禁止とすることがある。
3. 予備グリーンは定義上「目的外のパッティンググリーン」であり、球が目的外のパッティンググリーン上にある場合、競技者は規則 25-3 に基づいて救済を受けなければならない。なお、定義外の取り扱いをする場合においては別途、追加のローカルルールを掲示する。
4. 練習は指定練習場で行い、打球練習場では備え付けの球を使用し、スタート前の練習は1人1箱を限度とする。なお、打球練習場での使用クラブは飛距離 210ヤード以下のものに限る。
5. スタート時間 5 分前には、必ずティーインググラウンド周辺に待機すること。
6. ラウンド中、競技者は部外者を近づけないよう十分、留意すること。これを怠ると、ゴルフ規則 8 により罰せられることがある。なお、部外者のコース内立入りはラフのみとする。

競技委員長 野村 惇